

R 6 町政懇談会（西部ブロック）主な質問と回答

日時 令和6年11月14日（木）

午後6時～

会場 福祉センター大ホール

1. 高齢化に伴う住民の移動手段の確保

Q 運転免許返納者への対策として、路線バス（余市循環線）の終点・起点が分かりにくい点や、西部地区の運行本数や間隔が不便な点を改善してほしい。また、高齢者パスやタクシー券発行といった移動支援を検討してほしい。

A 【余市循環線について】 元々は町立病院までの路線を、国庫補助獲得のために、旧余市高校スクールバス路線と統合し、収支改善を図ったもの。利用のない時間帯の運行を短縮することは、経費の膨張を抑制するために必要であり、理解を求めたい。

【環型デマンドバスについて】 現在、試行運行（8月から）地域公共交通活性化協議会で議論し、12月から毎週運行を目指す。試行期間は来年2月末までを想定しており、その後、利用調査に基づき本格運行の是非を検討する。

【高齢者パス等について】 バスやタクシーを利用する際の優待パス発行は、財政的に難しいため、実施は困難である。今後は、デマンドバスの運行継続により、地域住民の移動手段確保に努めたい。

Q 余市循環線が教会病院から大川の駅前で乗客を降ろし、梅川に回送で帰るのは不便である。帰りの便も駅前ではなく起終点まで乗せてほしい。

A すべての起終点を同じにするのは難しい。利用のある時間帯とない時間帯があり、「空気を運ぶこと（経費の膨張）」を防ぐためである。梅川への回送中に乗客を降ろすことは、安全確保の観点から難しい。行政としては、バス事業者に要望できることがあれば伝えたい。

Q 旧教会線と現循環線の収支は改善したのか。

A 旧教会線は年間2,000万円近い赤字になることもあった。現在の余市循環線は直近1年間で約500万円の赤字であり、大きな収支改善効果はあった。旧教会線時代は町の上限補助が500万円だったため、それを超える赤字は事業者が負担していたが、現在は国と町で負担しており、町は約300万円の補助金を支出している。バス事業者としての負担はなくなった状況である。

2. 水産加工業者からの悪臭と廃水の問題

Q 水産加工業者からの悪臭と排水の問題は依然として続いている。特に役場が閉まった後の夕方から深夜、または日曜・祝日に悪臭が出る傾向がある。さらに指導を徹底してほしい。

A 業者による改修や設備投資（屋根・壁の補修、匂いを防ぐ措置（洗路）の導入）により改善は図られているが、悪臭が発生している日もある。町は都度、事業所に連絡し、原因と対応策を伺いながら指導している。悪臭の測定も継続して行っており、基準値を超過した場合は改善報告を受けている。今後も引き続き監視と指導の徹底を図る。なお、富沢にある工場は下水道に接続したことにより、工場排水を河川に放流しなくなったため、河川の汚染は改善した。

Q カラスがトラックから運ばれる残渣物を集めて民家の屋根に落とすなどの被害や、カラスが増える問題にも対処してほしい。

A カラスによる被害についても認識しており、ご意見としていただいたことを事業者にも要請していきたい。

Q 悪臭は夕飯や朝食の準備時間（例：午後5時頃、9月以降）に来ることがあり、非常に不快である。せめてその時間帯を避けるよう、強く要請してほしい。

A 悪臭の発生時間について認識しており、事業者にも強く指導している。早期に事業者にもこのご意見を伝え、改善していただくよう努める。

3. ゴミステーション設置補助金上限額の引き上げ

Q 現在のゴミステーション設置補助金の上限は5万円であり、これは10万円程度の費用（約10件以内の容量）に対応するものでしかない。カラス対策や衛生管理のためには設置型のしっかりした格納庫が必要であり、これにはより高額な補助（過去の例では20万円）が必要である。高額な補助（上限額の引き上げ）を検討してほしい。

A 補助金は予算の範囲内で対応しており、補助限度額を増額すると補助件数が減少することが予想されるため、現行の制度で進めたい。ただし、物価高騰によりゴミステーションの価格も上昇する可能性もあるため、状況を見極めながら、上限額についても検討させていただきたい。

- Q (再質問) 令和4年度は予算を40万円使っていたが、令和5年度は20万円と減少している。また、昨年は補助件数の制限(予算不足で補助額を減らすなど)はなかった。予算に余裕があるなら、多少金額のあるものに割り込ませて良いのではないか。
- A (行政からの回答なし。ブロック長の意見として、要望をさらに検討するよう要望)

4. LED から LED への更新費用への補助

- Q 国の方針に基づき LED 化が進められてきたが、最初の設置から10年程度が経過し、LEDの寿命(7~10年)対象外となっているため、補助対象に加えてほしい。
- A 現行の「街路灯設置補助金交付条例」では、更新工事への補助は「同一の街路灯につき1回限り」の補助内容となっている。今年実施したアンケートでは、LEDからLEDへの更新についても補助してほしいという回答が多数寄せられている。過去の要望と今回の要望を踏まえ、新規設置の補助の他、修繕やLEDランプとの交換、落雷等の特殊な破損についても補助対象とできるよう、財政部局と協議の上、制度改正を検討している状況である。
- Q いつ頃から実施できるように進められているのか。
- A 現在、アンケートを集約中であり、具体的に「いつ頃から」と明示することはできないが、今後少しでも早くできるように努めたい。

5. その他

- Q 野良猫の問題: 近所で餌やりをする人がいるため猫が増え、畑を荒らしたり、糞をしたりして近所迷惑になっている。町に連絡しても対応が取れていないため、なんとかしてほしい。
- A 餌やりについては、基本的には自粛活動をお願いしている。現在、ホームページには掲載しているが、町民が最も見る「広報よいち」内容を工夫して、餌を与えないよう啓発活動をしていきたい。また、空き家に入り込み繁殖している問題については、「まちづくり計画」担当課に連絡すれば、所有者に対応を要請する。

- Q 梅川の太鼓橋付近の川底が浅くなり、枝道の排水箇所が溢れることがある。北海道の管轄だと思うが、川を掘るなど対策を講じてほしい。
- A 梅川は北海道の管理であり、毎年2回ほど、北海道後志総合振興局建設管理部に要望する機会があるので、この件についても要望していく。
- Q 余市町の交番が、凶悪犯罪が増えている時期に、2人体制から1人体制に減員されていると聞く。なぜこの時期に1人にしたのか。また、防犯カメラは地域にどれほど設置されているのか。
- A 交番の配置については、余市警察署と情報を共有し、地域からの懸念を伝えていく。防犯カメラに関しては町として特に把握はしていない。個人情報などの問題も関係してくる。
- Q JR 北海道の廃線問題と 2024 年問題：今後、バスの減便が予想される中で、代替交通手段について再検討するのか。町民に状況を伝え続けてほしい。
- A 並行在来線（函館本線）は新幹線延伸に伴い全線転換で合意しているが、新幹線開通が 2030 年以降に遅れるため、いつになるかは未定。町は「利便性と迅速性が確保できるのであれば」という条件付きで合意しているため、その前提が崩れるのであれば合意を撤回するというのが町長のがスタンスである。交通転換の問題点としては、並行在来線は元々赤字であり、同じ路線・時間帯でバス転換してもどうせ赤字になる。道長（北海道知事）には、「この地域の交通をどう考えているのか」「新幹線駅までのルートを検討すべき」と伝えている。新幹線のダイヤが見えない限り、それ以上の議論は進まないため、現時点では「全体が全く見えてなく、分からない」というのが現状である。
- Q 文化財（安倍吉平の石塔、旧余市高校の校舎等）の管理が疎かになっている。特に国指定文化財である安倍吉平の石塔の場所が荒れていて、来訪者を迎える体制になっていない。街をきれいに保ち、町の品格を保ってほしい。
- A 具体的な回答なし
（町長の私見として文化財の重要性や、他地域の事例について言及があった）
- Q 懇談会資料の事前配布：ブロック長会議で決まった要望事項が町民の半分以上に伝わっておらず、何を読み上げているのか分からない。ブロック長会議をもっと早めに行い、意見を配布して町民の意見を募るべきではないか。

A 来年度に向けては改善するように、ブロック長から連合会長に伝えておきたい。